

古井由吉 著
 ▶ ゆらぐ玉の緒
 2・25刊 四六判224頁 本体1700円
 新潮社

描かれうるものと 描かれてはならないもの

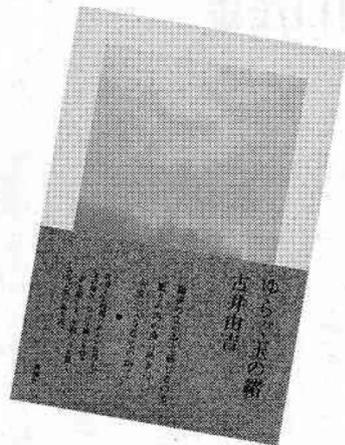
古井由吉のジョギング問題

阿部公彦

古井由吉がジョギングを語る、という「え？」と訝る人も多いだろう。村上春樹じやあるまいし、よりによってあの古井由吉がジョギングのことなんか書くわけがない。古井の作品世界はマランやランニングなどには無縁で、そもそも力タカナの外来語だつてあんまり出てこない。おおよそスポーツなどという軽薄な行為がどこにも存在しないかのような、エロスや妖気や狂気の兆しに覆いつくされた空間なのだ。

しかし、本書『ゆらぐ玉の緒』におさめられた最後の作品「その日暮りし」の次の一節などは、私が誤読しているのではない限り、明らかにジョギングのことを描いているのではないだろうか。

あの時には五十日ばかりの入院の後、家にもどり、しばらくは日常尋常の暮らしの万端に不如意を覚えさせられたが、三ヶ月ほども



「一年と立たぬうちに毎日のように暮れ方に、かなりの距離を築いてこなすようになった」というのは、「夕方、長めのジョギングをこなすのが日課になった」と言い換えてもそれほどまちがってはい

ないだろう。しかし、そうは「書かない。なぜだろう。このようなジョギングの描かれ方に注目するだけでも、あらためて古井作品の持つ迫力の在処のようなものをとらえなおすことができるのではないかと思う。」

本書は八篇の短篇からなる連作作品集である。八つの作品にはそれとわかる連絡がない。視覚、聴覚、嗅覚などに触発されて世界とのかかりを見つめ直す展開である。とくに冒頭の「後の花」と最後の「その日暮りし」は写真を契機にした想像のひろがりを追っており、連作全体の円環的なつくりに寄与している。

語りのかきつけを知覚的な遭遇に求めるのは日本の古来の詩歌にもよく見られる設定で、古井と古典詩歌との関係を彷彿とさせて興味深いのだが、むろん古典の世界に耽溺するとうようなことではない。「ゆらぐ玉の緒」に描かれるのは、空襲の体験をはじめ、他者の死、世相の変化、自身の入院と手術など、いずれも抜き差しならぬ生の局面ばかりである。

しかし、そうしたいわば個人的な事情を、単なるパーソナルで閉じた出来事として終わらせないのが作家の筆法である。そのもっともわかりや

すい指標は「私」の扱いだろ。う。「私」をはじめとした主語を使わない古井の文体はかねてから指摘されている通り。近代文学のごたわつてきた個人の内面という枠をこえて主観はじみ出し、自己と他者との間の境界領域に誰のものとも知れない情緒や情念があふれる。古井の作品世界では、従って、欲望はそれほど単純な形をとらないし、誰が何を欲望する、というパターンに依存した物語の作法もあまり見られない。

少なくともある時期からの古井は、自己と他者との葛藤をベースに物語をつくるというところを失くなった。そのかわりに問題になるのが、自我の背後にあるべき場Ⅱコンテクストである。この評の冒頭で触れたように、古井作品には強烈な場の匂いがつきま

とっており、それが強い拘束を働かせる。描かれうるものと、描かれてはならないものが明確に峻別されているように感じられる。

しかし、作品のことばは「一場」を構築し守ろうとするばかりではない。むしろつくりあげた場をたえず切り崩そうとするその圧力こそ、古井のな葛藤の芯がある。「孤帆一片」では、病院で処方された点眼薬のために瞳孔の反応が遅れた「明暗の不吉なように際立った光景に目を瞞っ

た」というのは、体験が書かれるが、これは身に覚えのないことではないという。今までも、恐ろしいものを目にして怯えつづも、かえって見つめてしまうことがあった。そういうとき、「恐怖と恍惚がほとんど一体になっている。いわゆる崇高に近い体験だと言えよう。」

こうした例に如実に見られるように、古井の作品は自我こそが強烈で、そのため世界の地盤があさりと反転する可能性をひめている。価値がひっくり返るのである。先のジョギングもまさにそのような描かれ方をしている。爽やかで前向きで健康性に満ち満ちているはずのジョギングが、古井由吉の手にかかるといつ怪しい魔的で怪異な奇行に変じてもおかしくないから不思議だ。ジョギングには、安定したリズムを徹底的に身体にたたきこむという側面があるから、場Ⅱコンテクスト

が、古井由吉の手にかかるといつ怪しい魔的で怪異な奇行に変じてもおかしくないから不思議だ。ジョギングには、安定したリズムを徹底的に身体にたたきこむという側面があるから、場Ⅱコンテクストが、古井由吉の手にかかるといつ怪しい魔的で怪異な奇行に変じてもおかしくないから不思議だ。ジョギングには、安定したリズムを徹底的に身体にたたきこむという側面があるから、場Ⅱコンテクスト

芸術